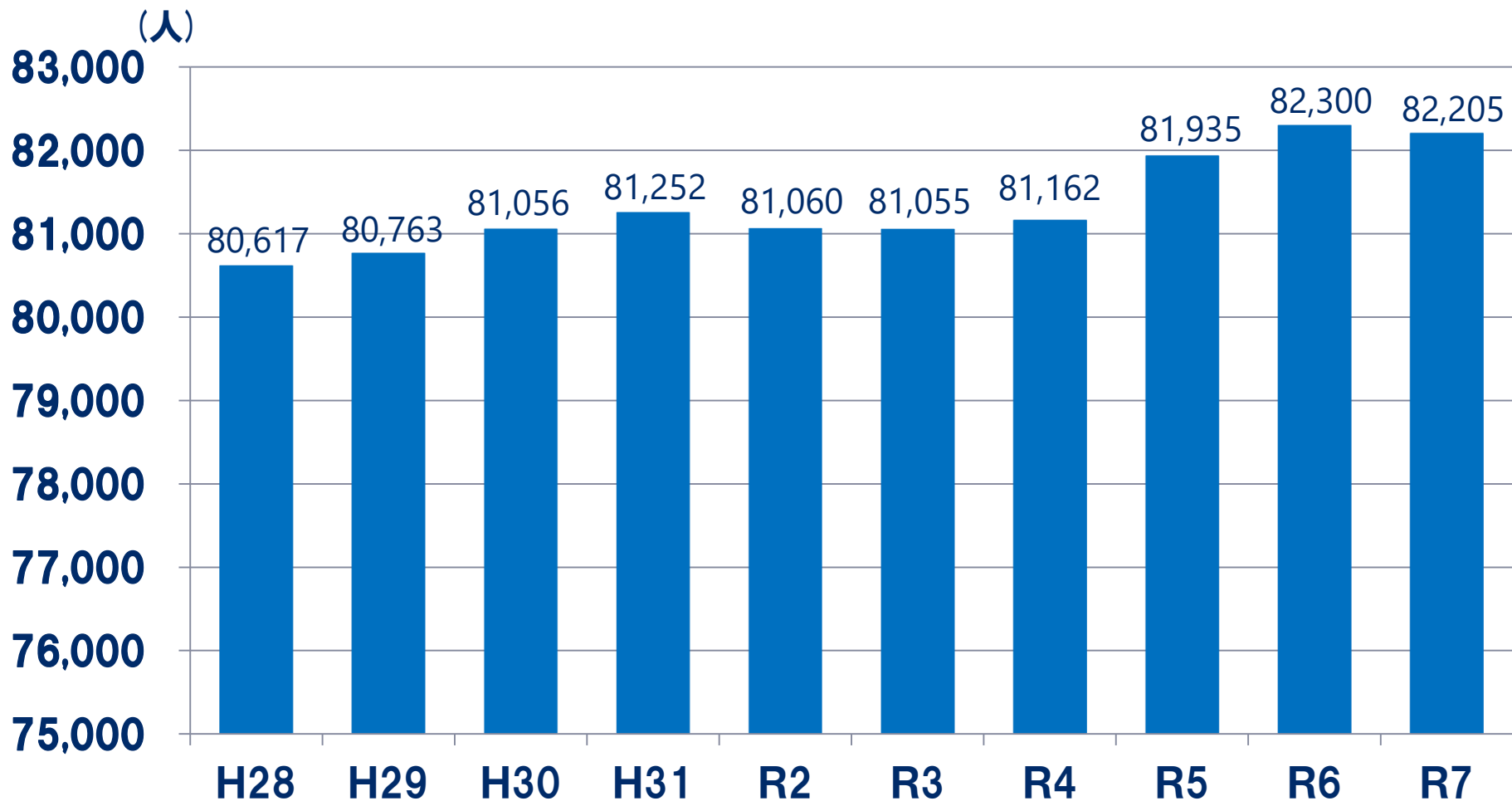


令和7年度 当初予算の概要

長岡京市長 中小路 健吾

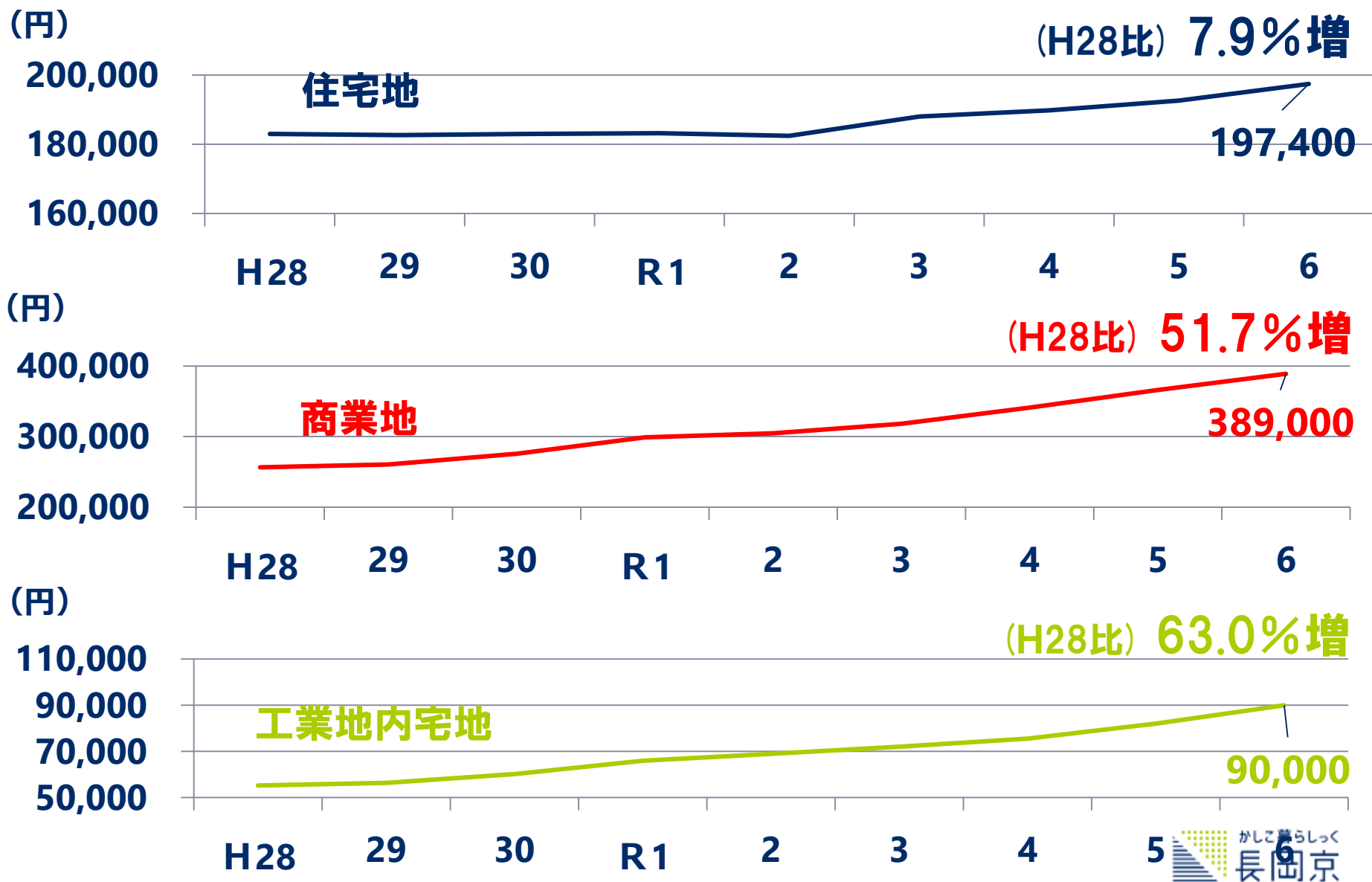
長岡京市 人口の推移

人口は **微増傾向** ↑ **8万2千人** を突破



※各年1月1日時点の住民登録人口

地価調査 (各用途地区の市内平均価格) の推移



第3期基本計画の策定

計画期間

基本構想
(15年)

基本計画
(5年)

実施計画
(3か年前・後期)

2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	R09	R10	R11	R12
基本構想（１５年） 2016（H28）～2030（R12）														
第１期基本計画 2016（H28） ～2020（R2）					第２期基本計画 2021（R3） ～2025（R7）					第３期基本計画 2026（R8） ～2030（R12）				
実施計画					実施計画					実施計画				
前期					前期					前期				
		後期					後期					後期		

第2期基本計画 仕上げの年度



3つの戦略目標



1. 定住促進

2. 交流拡大

3. 新陳代謝

7年度当初予算編成にあたって

1. 子育て・教育環境の充実

2. 安全安心のまちづくり

3. 人と人がつながる

にぎわいと交流、共生の基盤づくり

4. デジタル化の推進による

市民の利便性向上と業務効率化

一般会計予算の総額

7年度一般会計予算

過去最大

422億円

対前年比

52.68億円 14.3%増

財源の確保

予算額**422億円** うち庁舎建設**約48億円**

庁舎を除いても **過去最大（374億円）**

- 市税 +5億4千5百万円増 (※)

⇒過去最大となる135億5千5百万円を見込む

- 譲与税、交付金 +2億6千5百万円増 (※)

- 地方交付税 ▲4千万円減

- 臨時財政対策債 ▲8千万円減

} 市税の伸び
による減

1. 子育て・教育環境の充実

こども家庭センターの新規設置

- 妊娠期から子育て期まで、切れ目なく一元的に相談ができる体制
- 児童福祉と母子保健の機能を一体的に運営し、全てのこどもの成長を支える

<現行>

子育て支援課

└ 家庭児童相談室

連携

健康づくり推進課

└ 子育てコンシェルジュ

<令和7年度>

<福祉部門> 子育て支援課

こども家庭センター

子育てに課題を抱える家庭への
相談支援

子育てコンシェルジュ
健診／教室

<新規・充実の取組>

- ◆「子ども家庭指導員」の配置
- ◆サポートプランによる伴走支援の充実
- ◆男性に対する育児の知識と手技の指導
- ◆こどもの居場所づくり
- ◆子育てに支援が必要な家庭の相談と指導
- ◆ヤングケアラーなどこども・若者からの相談対応

<健康部門> 健康づくり推進課

福祉と教育、学術機関の連携

福祉と教育の融合で質の高い子育て環境をさらに充実

教育・福祉連携拠点「らしっく」



教育支援
センター

大阪大学大学院
連合小児発達学研究科
との連携を深化・拡充

教育支援
センター
(会議室)

教育支援センターの拡充

- ・アゼリアの個別対応室
(児童生徒・保護者) **新**
など

教育と福祉の連携

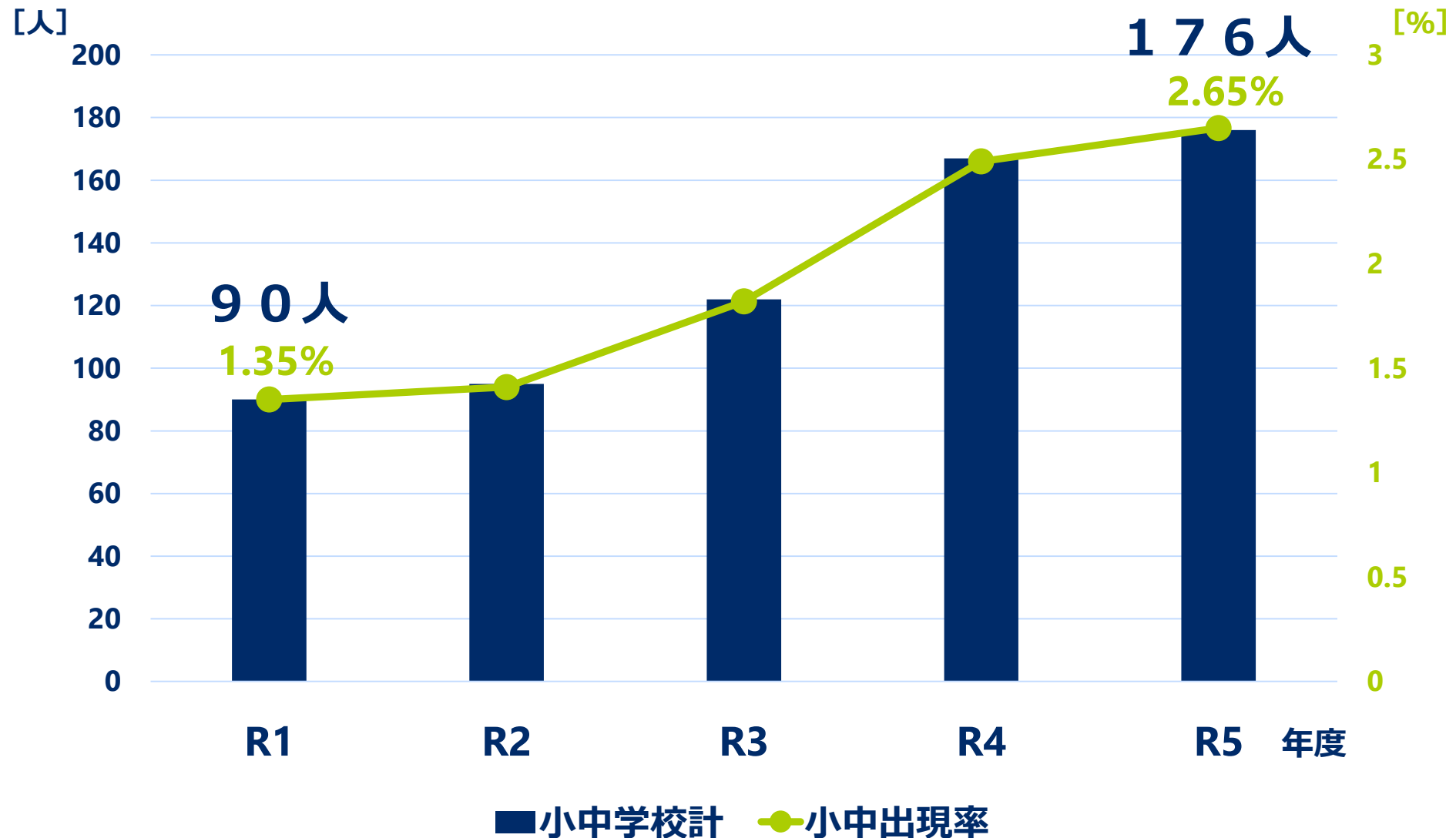
- ・かおTVを活用した調査（発達課題、不登校等） **新**
- ・アゼリアの屋内運動（卓球、体操等） **新**
- ・会議（保幼小連携、教育支援委員会幹事会等）
- ・学習支援「たけのこルーム」 など

屋外遊技場

- ・アゼリアの植物栽培 **新**
- ・アゼリアの軽い屋外運動 **新**

【バンビオ1番館 5階】

不登校児童・生徒数



※出現率 = 人数 / 全校の児童・生徒数

大阪大学大学院連合小児発達学研究科と連携

● ^{テレビ} かもTVの活用

かもTVで**早期に特性を理解し**、
必要な支援につなぐ。
子どもの視線の動きを知ること、
親の新たな発見にもつながる。



興味のあるものを
目で追ったり
指で差したり...

● 学校風土調査

学校の雰囲気について、児童生徒が無記名でアンケート調査に回答することにより、**科学的に正確に**評価することができる。

● 中学生を対象に「勇者の旅」プログラム

認知行動療法の理論に沿って、不安の問題に自ら対処する方法を学び、
適切な不安対処スキルを身につけることを目的とした、**全10回の予防教育プログラム。**



不登校対応・ひきこもり支援の環境整備

● 全ての小中学校に校内教育支援センターを設置

学校やクラスに入りづらい児童生徒の居場所をつかって、早期支援、学びの継続につなげる。

R5:小学校 5校、中学校 1校

R6:小学校 7校、中学校 2校

R7:全校設置



▲中学校の校内教育支援センターの様子

● 心と体の健康観察アプリの本格導入

令和5年度より試験導入し効果を検証してきた心と体の健康観察アプリを本格導入。早期に対応が必要な子どもの発見につなげる。

保育所施設・小中学校施設の整備

保育所施設

- 認定こども園移行に向けた整備、民間保育園の増築支援
- 深田保育所整備工事基本・実施設計
- 新規2保育園(受入れ140名増)、認定こども園移行を進める
幼稚園の運営支援

小中学校施設

- 小学校再整備事業（長三小・長四小）
- 小中学校体育館等のLED改修（長十小・長三中・長四中）

2. 安全安心のまちづくり

防災情報伝達手段

これまでの防災情報伝達

ソフト対策を中心に多重化した情報発信

緊急速報メール、登録制メール、LINE、X(旧Twitter)、Facebook、テレビ(データ放送)、ラジオ(FMおとくに)、ホームページ、モーターサイレン

【課題】

スマートフォンを見る(設定する・登録する)、テレビをつけて確認する
ラジオをつけて聞くなど、能動的な行動が必要
サイレンの音だけでは何を伝えたいか、分かりづらい

激甚化・頻発化する風水害、南海トラフ地震等大規模地震への備え

緊急情報を行政から市民へ強制的に伝達する手段が必要

同報系防災情報伝達システムの整備

FMおとくにもを活用した

同報系防災情報伝達システムの整備



市からの緊急情報を **FM86.2MHz** にのせて発信

緊急告知信号も同時に発信することで、通常のラジオから放送されるだけではなく、

屋外拡声子局（屋外スピーカー）

戸別受信機（自動起動ラジオ）

強制的に起動して放送し、市民へ確実に情報を伝達

屋外拡声子局設置予定箇所

● 現在のモーターサイレン7箇所
(音のみで分かりにくい・老朽化が進む)

▼
スピーカーへ更新し直接音声で伝える

(例) 緊急地震速報！大地震です
避難指示を発令しました

● 今里自治会館

● 長岡京市役所

○ 西山公園

● 西山公園体育館

○ 西代里山公園

● 奥海印寺自治会館

● 乙訓消防組合
消防本部

● 金ヶ原自治会館

● 久貝公民館

○ 自ら情報取得が難しい、子どもたちの安全確保のため、
大型公園(西山公園、西代里山公園)にも同じ緊急情報を連携して放送

戸別受信機等の有効性



市町村の庁舎等



戸別受信機(自動起動ラジオ)の配布

より確実に、配慮や必要な人や地域に

プッシュ配布 **約3,000台**

- 災害時避難行動要支援者名簿登録者
- 土砂災害特別警戒区域
- 災害時孤立可能性地域(浄土谷) 等

その他、下記の **希望世帯に配布**

- 洪水浸水想定3m以上の区域又は土砂災害警戒区域内に居住する要配慮者の内希望する世帯 等

防犯体制の充実

防犯カメラ

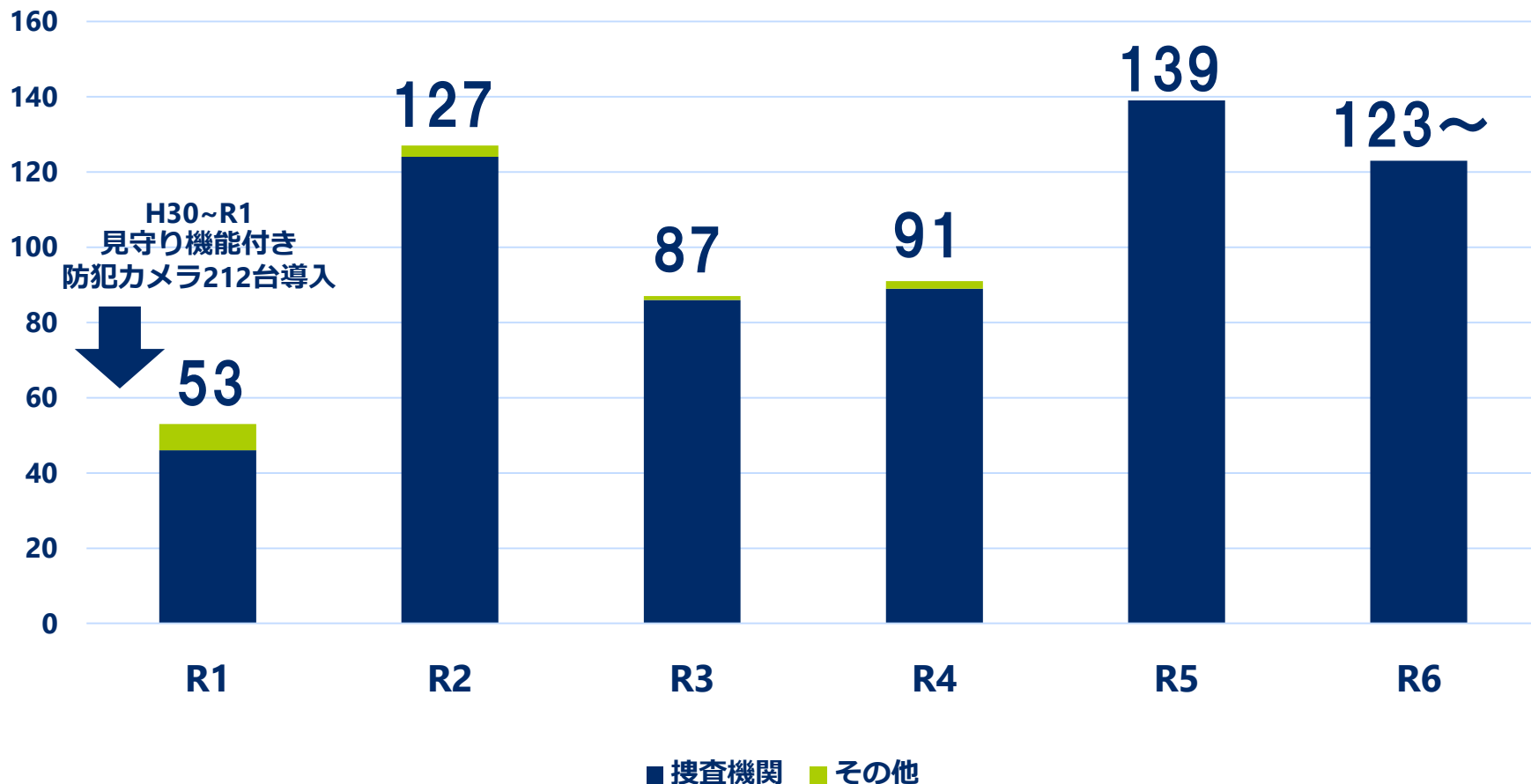
212 台

※ 設置場所は
各校区の地域団体等と調整



見守り機能付き防犯カメラの活用状況

見守り機能付き防犯カメラの閲覧件数



年間約100件の活用 犯罪等早期解決に貢献

さらなる安全・安心へ

見守り機能付き防犯カメラ 運用開始から5年経過
闇バイト・トクリュウをはじめとした 社会情勢の変化

さらなる 犯罪発生抑止と見守り強化



- メンテナンス・随時更新
- 見守り機能付き防犯カメラ増設

警察等の専門的意見と
地域の声を反映し、

30台 増設

3. 人と人がつながる にぎわいと交流、 共生の基盤づくり



JR長岡京駅東口駅前にぎわい広場整備工事

ほこみち制度 × 商工会

で賑わいを創出

賑わい広場活用の方向性

「何でもできるところ」

「何かしたい人が集い仲間を作るところ」

「何もしなくてもよいところ」

通常時利用イメージ	イベント等の利用イメージ	プラスワンの利用イメージ
・ 子供が遊ぶ姿を見ながら、椅子に座っておしゃべりや食事を楽しむ ・ 駅利用の前後やバス待ちに少し休憩 ・ 放課後の中高生が集まっておしゃべり ・ 市内の観光地めぐりの集合場所	・ キッチンカーやフリーマーケット等の賑わいの創出 ・ 人工芝で早朝ヨガ体験 ・ 夏休みのラジオ体操 ・ 子供用プールの開放など遊び場の提供	・ レンタサイクルによる観光地めぐりの拠点 ・ チャレンジショップによる創業体験 ・ キッチンカーの市内出店場所

JR長岡京駅東口駅前にぎわい広場整備工事

JR長岡京駅東口賑わい広場の活用イメージ

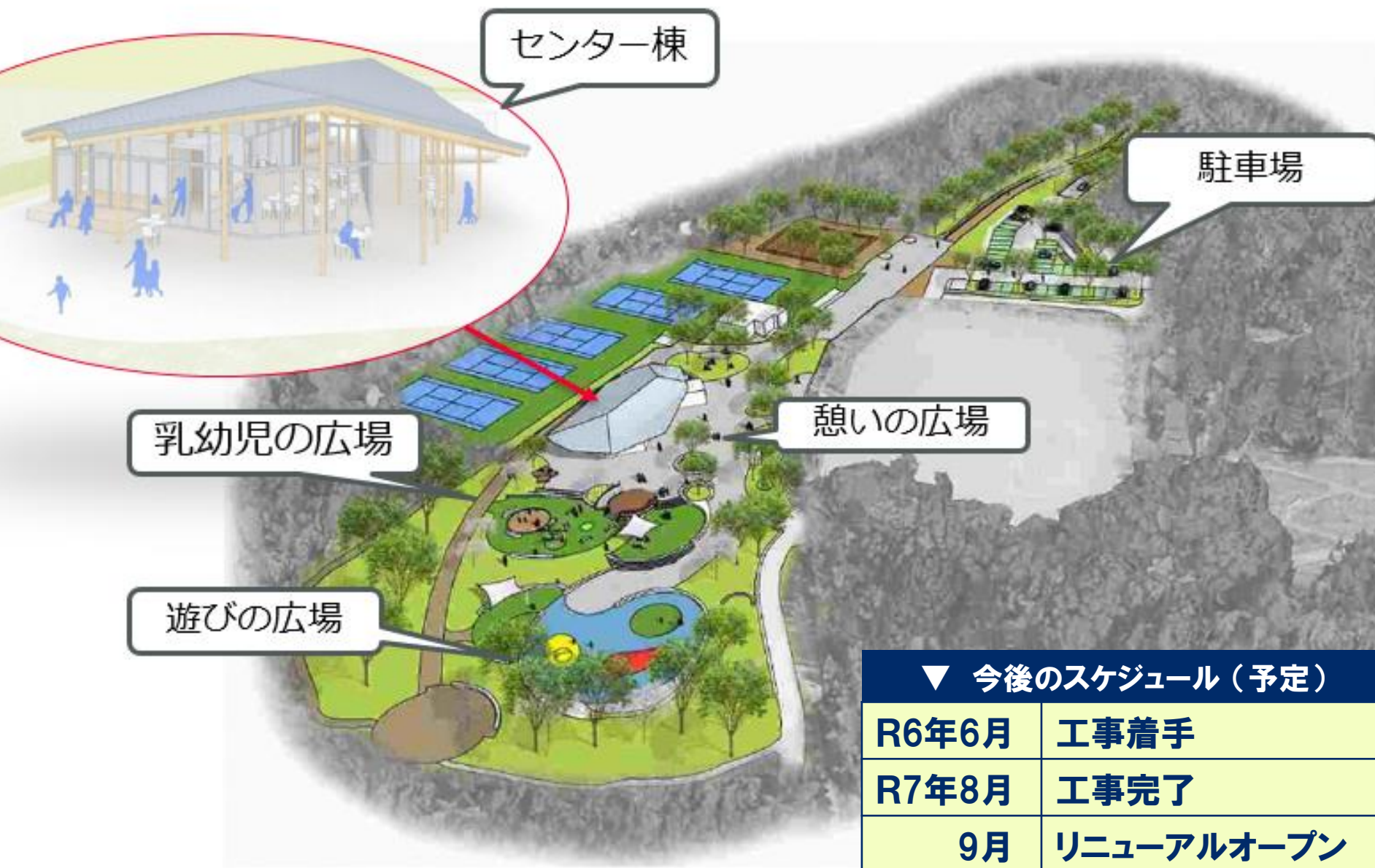


長岡公園のリニューアルオープン

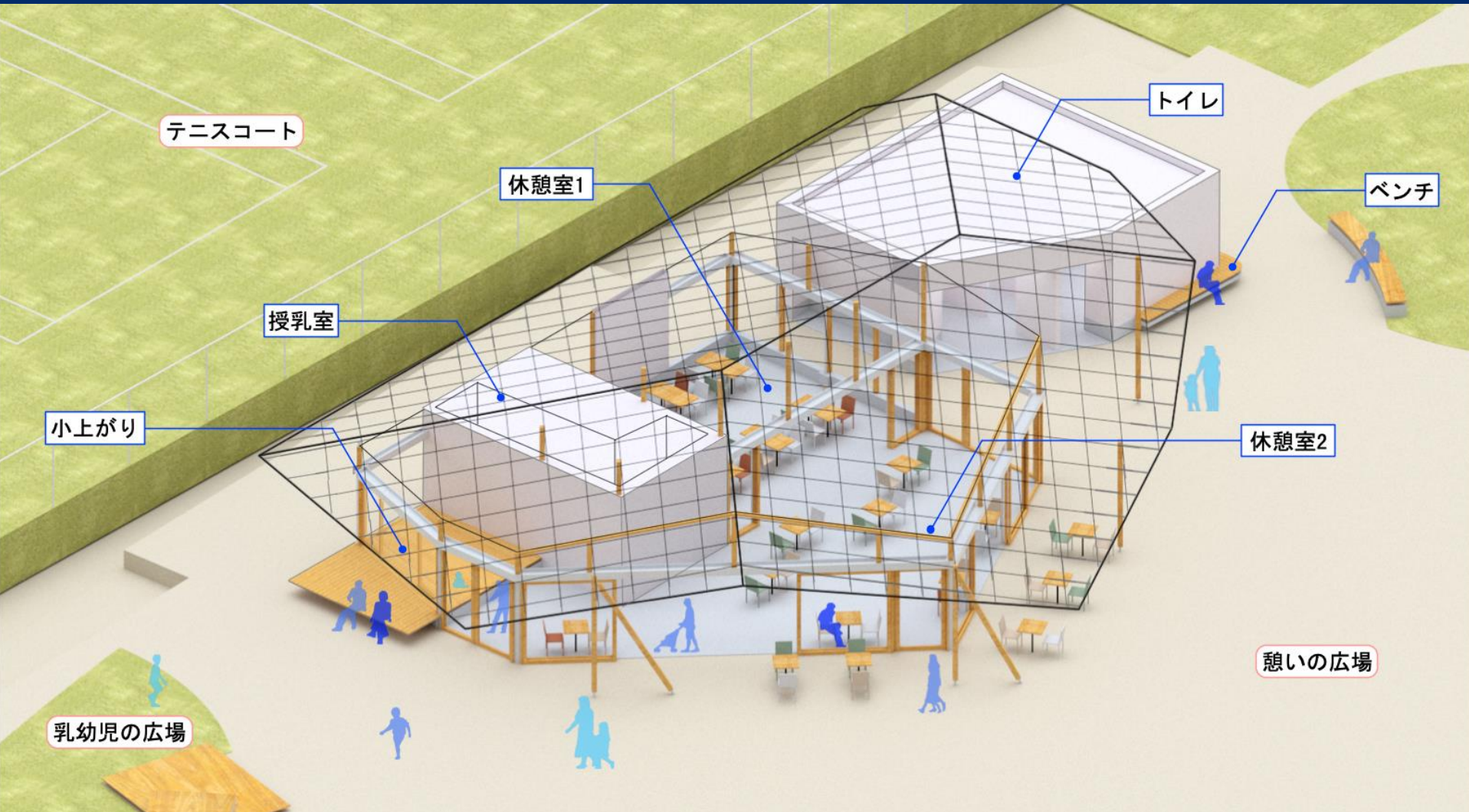


長岡公園

長岡公園のリニューアルオープン



長岡公園センター棟



**トイレや授乳室を併設したセンター棟が
外で遊ぶ子どもを見守る拠点に**

西山公園エリアの魅力向上に向けた整備



広場整備（インクルーシブ公園）



▼ 今後のスケジュール（予定）

R5年度	配水池解体等工事
R6・7年度	整備工事
R8年度	オープン

グリーンハウスの改修（カフェ誘致）

（改修前の様子）

- 改修内容 外壁・空調設備
【ZEB Ready (ゼブレディ) 認証取得予定】 等
- 令和8年度春 完成予定

カフェ（事業者からの提案イメージ）



ジャブジャブ池の改修

(改修前の様子)

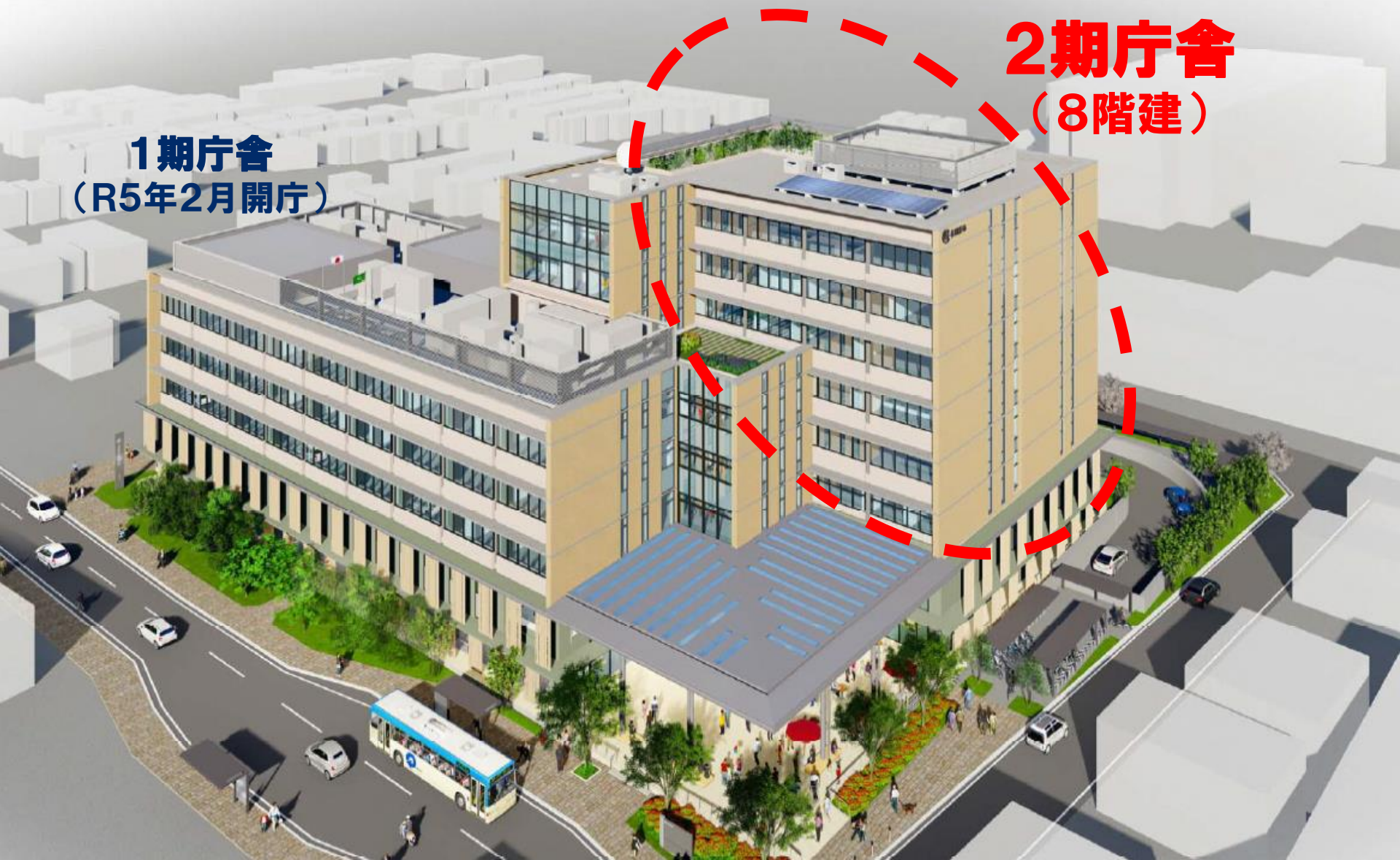


- 改修内容 池底改修等
- 令和7年度末 完成予定

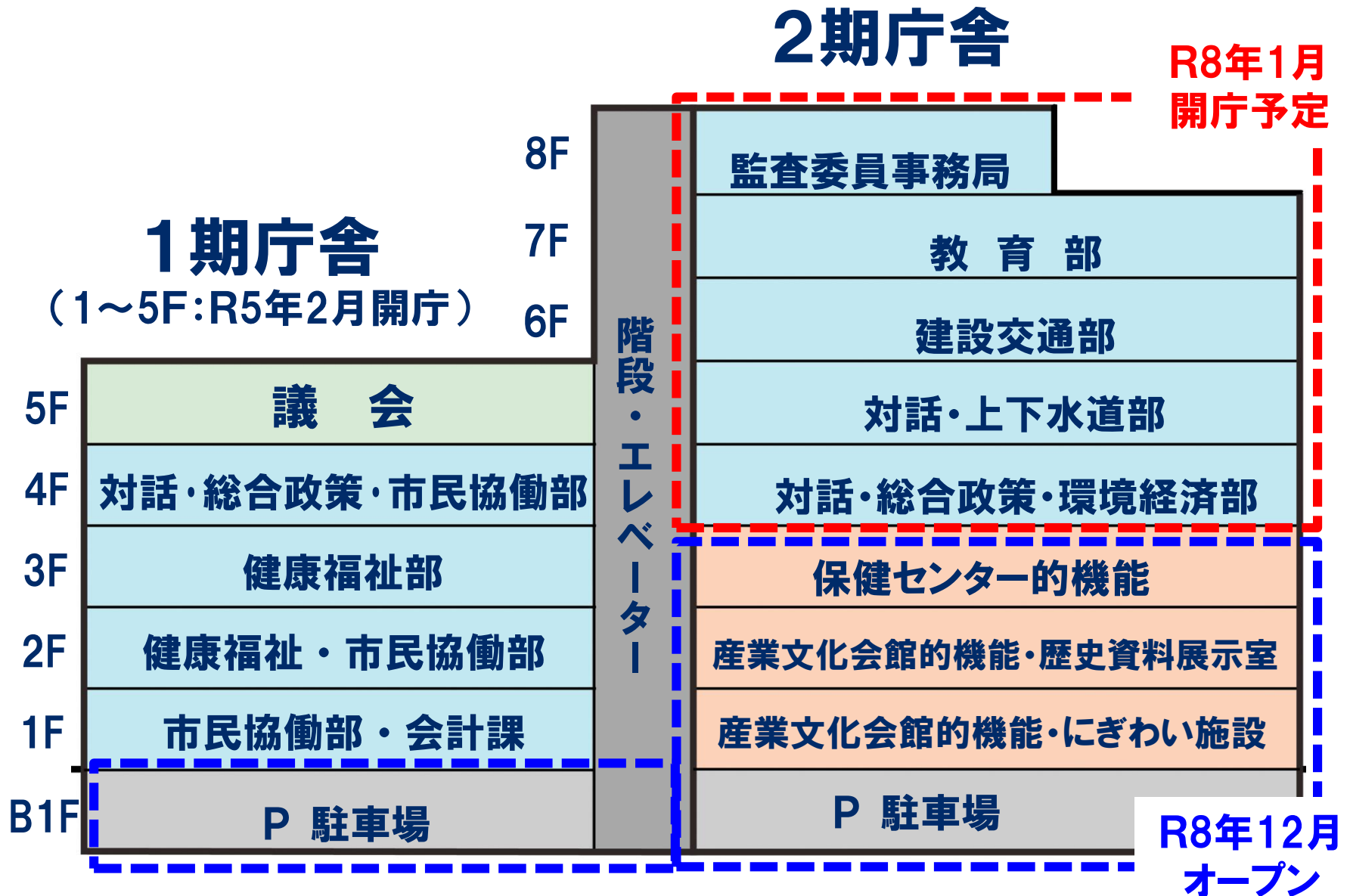
にぎわい拠点としての市役所づくり

1期庁舎
(R5年2月開庁)

2期庁舎
(8階建)



2期庁舎建設



歴史資料展示室の整備

施設コンセプト

長岡京市7つのものがたりミュージアム

※施設名称ではありません、
パース内にはイメージとして
加えております。

長岡京市の歴史文化の特徴をストーリーとしてまとめた「7つのものがたり」。
ジオラマを活用したプロジェクションマッピングやリープモーションできる3D映像、
実物展示などを通じて「7つのものがたり」を体感できる施設を整備していきます。

アナログ手法で歴史文化への興味を喚起

展示スペース

ハンズオンをはじめ、歴史文化に関心がない人も思わず展示室へ入りたくなるような仕掛けを盛り込んだ導入空間。展示資料の見方を学びながら、来館者の興味喚起を促します。

デジタル手法で長岡京市の魅力を再発見

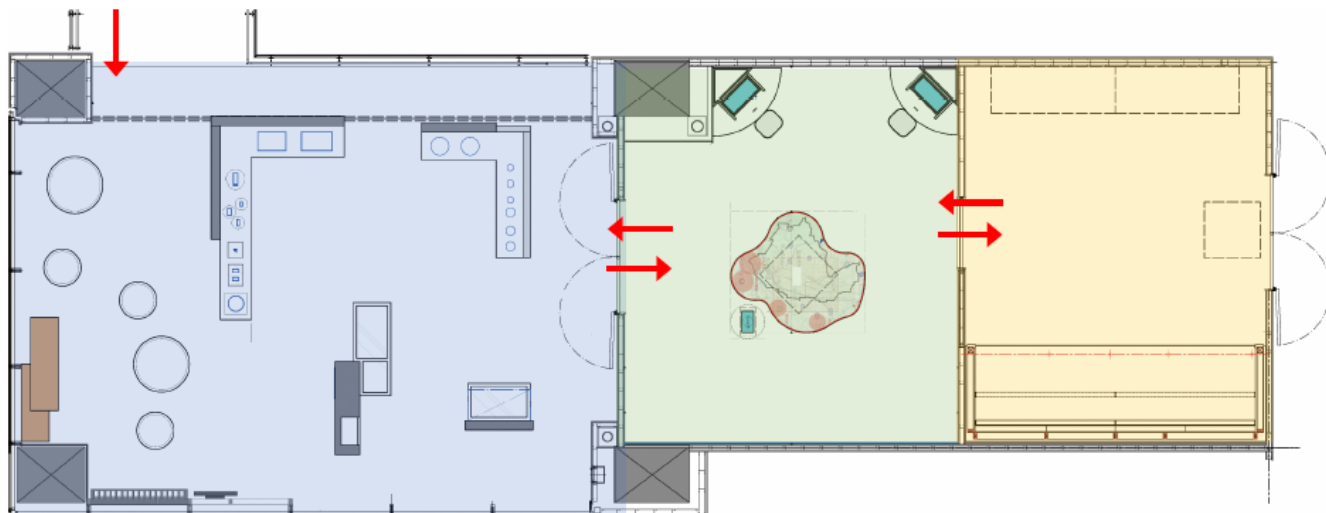
展示室1

地形模型へのプロジェクションマッピングなどの展示体験により、地形と歴史を紐づけながら長岡京市のもつストーリーにふれることでまちの魅力を再発見し、来館者自らの興味関心を掘り下げることのできる展示空間とします。

本物の魅力で現地来訪を促進

展示室2

長岡京市のもつ文化財をテーマごとに展示し、一定期間ごとに入れ替えを行う企画展示空間。資料保存に細心の注意を払い、重要文化財を展示可能な仕様で展示環境を設計。本物のもつ魅力にふれることで、現地来訪意欲の創出を図ります。



歴史資料展示室の整備

展示スペース



展示室1



3 てのひら3Dアーカイブス

ヘッドセットなどを装着せずに裸眼で立体映像を見ることができるディスプレイを用いて、3Dスキャンされた文化財を感覚的な操作で鑑賞することができる展示コンテンツ。建築物や仏像など普段触れることができない貴重な資料を感覚的に鑑賞することができます。



展示室2



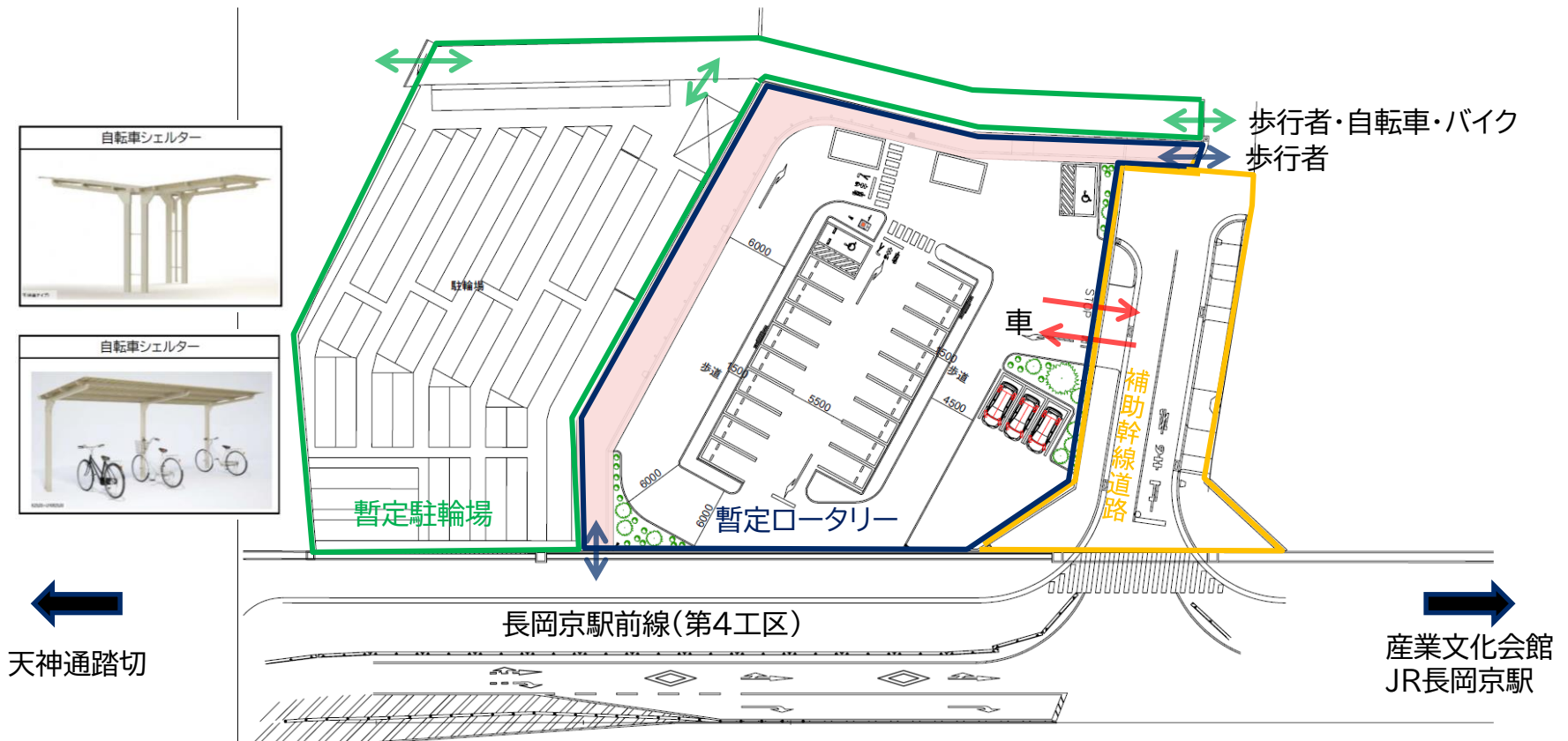
都市機能向上を図るインフラ整備

◆長岡京駅前線整備事業(第4工区整備)

◆阪急長岡天神駅周辺整備事業



阪急長岡天神駅東 暫定ロータリー・暫定駐輪場



暫定駐輪場 R7年5月供用開始(予定)

- 自転車 336台、原付 111台、自動二輪 37台
- 撤去自転車 96台
- 長岡京市が設置、シルバー人材センターに委託

暫定ロータリー R8年中供用開始(予定)

- 目的: 自家用車の乗降場・待機場所の確保
- ロータリー最大7台+車いす用1台、時間貸駐車場18台+車いす用1台
- 大和ハウスパーキングが設置・運営。30分無料、最大料金あり

公共交通施策の拡充

地域公共交通計画

基本方針	実施中の施策	現状の課題
1.市民の移動を支える交通システムの維持・構築	・はっぴいバス、東部バスの運行 ・タクシー乗継事業 ・愛のタクシー事業 ・阪急長岡天神駅周辺整備 ・矢羽根の整備 ・駐輪場管理運営事業 ・免許返納支援事業 ・定期券等購入補助事業 ・モビリティ・マネジメントの取組み ・はっぴいバス済生会無料 等	・担い手確保に向けた取組み ・若年・現役世代へ向けた取組み ・利用者数の増加につながる取組み
2.自家用車に頼らず、歩いて暮らせる公共交通中心のまちづくり		
3.公共交通をみんなで活用し、維持する体制の構築		

駐車場余剰金の活用により地域公共交通計画
を補完する取組み・施策を展開

持続可能な地域公共交通の実現に向けて

市営駐車場事業



余剰金の活用

- 新たな基金の創設
はっぴいバス更新のための積立てなど



- 公共交通利用者への

ガラシャPayポイント付与



- 担い手確保に向けた奨励金

- 通学定期券等購入補助(拡充)



- デジタル広告による情報発信

- 公共交通マップ作成 等



持続可能な地域公共交通の実現

4. デジタル化の推進による 市民の利便性向上と 業務効率化

自治会運営のデジタル化支援

背景

- ・ スマートフォンの普及、市公式LINEでの市政情報発信の定着
- ・ 一部の自治会では自治会公式LINEやホームページを活用
- ・ 回覧の削減やデジタル化について問い合わせ **増**
- ・ 防災面で安否確認にSNSを利用したいとの問い合わせ **増**



自治会専用のSNSを導入

- ✓ 防災面で活用
- ✓ LINEを使用するよりも便利
- ✓ 自治会の費用負担も軽減

住民向けDXツール 自治会サポ！

“届けたいときに手軽に届けられる”

住民向けDXツール『自治会サポ！』を導入



自治会サポの特徴

①最も利用されているSNS「LINE」で情報発信

- ▶ 回覧板でお知らせしていた地域情報や全戸配布のチラシをスマートフォンやパソコン上で見ることができる

②情報発信以外にもアンケートや掲示板など多くの機能がある

- ▶ 緊急連絡や住民同士のコミュニケーションにも活用できる

自治会の情報発信の負担軽減。紙の配布物も削減。

デジタル化で若い世代の参加者増加に期待。

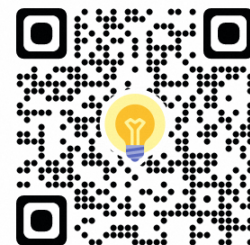
市民参加型合意形成プラットフォーム

スマホひとつで、まちづくりに関わろう！

Voice NAGAOKAKYO
ボイス ナガオカキョウ 長岡京市

長岡京市民参加型合意形成プラットフォーム

R8.3まで
実証実験



<https://nagaokakyo-city.liqlid.jp/>

- ・アプリ不要
- ・LINE連携で登録
- ・匿名やニックネームで投稿



市民の皆様が時間や場所を問わず、気軽に市が設定したテーマに対して、意見やアイデアを投稿し、市民同士で意見交換ができるウェブサイトが誕生。

オンラインなので、いつでも、どこからでも、気軽に意見を投稿することが可能。

市民参加型合意形成プラットフォーム

VoiceNAGAOKAKYO(ボイス ナガオカキョウ)でできること

- ・ 市民ワークショップに興味あるけど「仕事で忙しい」「子どもを連れてはいけない…」
▶ オンラインなのでいつでもどこでも参加可能！
- ・ まちづくりについて「他の人はどう思っているんだろう…」「良い意見には賛成したい」
▶ 他の方の意見を見て、「いいね」やコメントをすることができます。

投稿例



「Voice NAGAOKAKYO」は、株式会社Liquitousと「DXを通した市民の行政参加促進に関する連携協定」を締結し、令和7年度末まで実施する実証実験の一環です。株式会社Liquitousが開発したオンラインプラットフォーム「Liqlid」を活用しています。「Liqlid」は、株式会社Liquitousが独自に開発した、『じっくり話して、しっかり決める』がコンセプトの、対話・熟議に基づく参加型合意形成プラットフォームです。Liqlidは、市民と行政をつなぎ、市民発のアイデア出しからプロジェクトの共創、意向調査までを一気通貫で行うことができ、全国の自治体で活用されています。

長岡京市 公式LINE

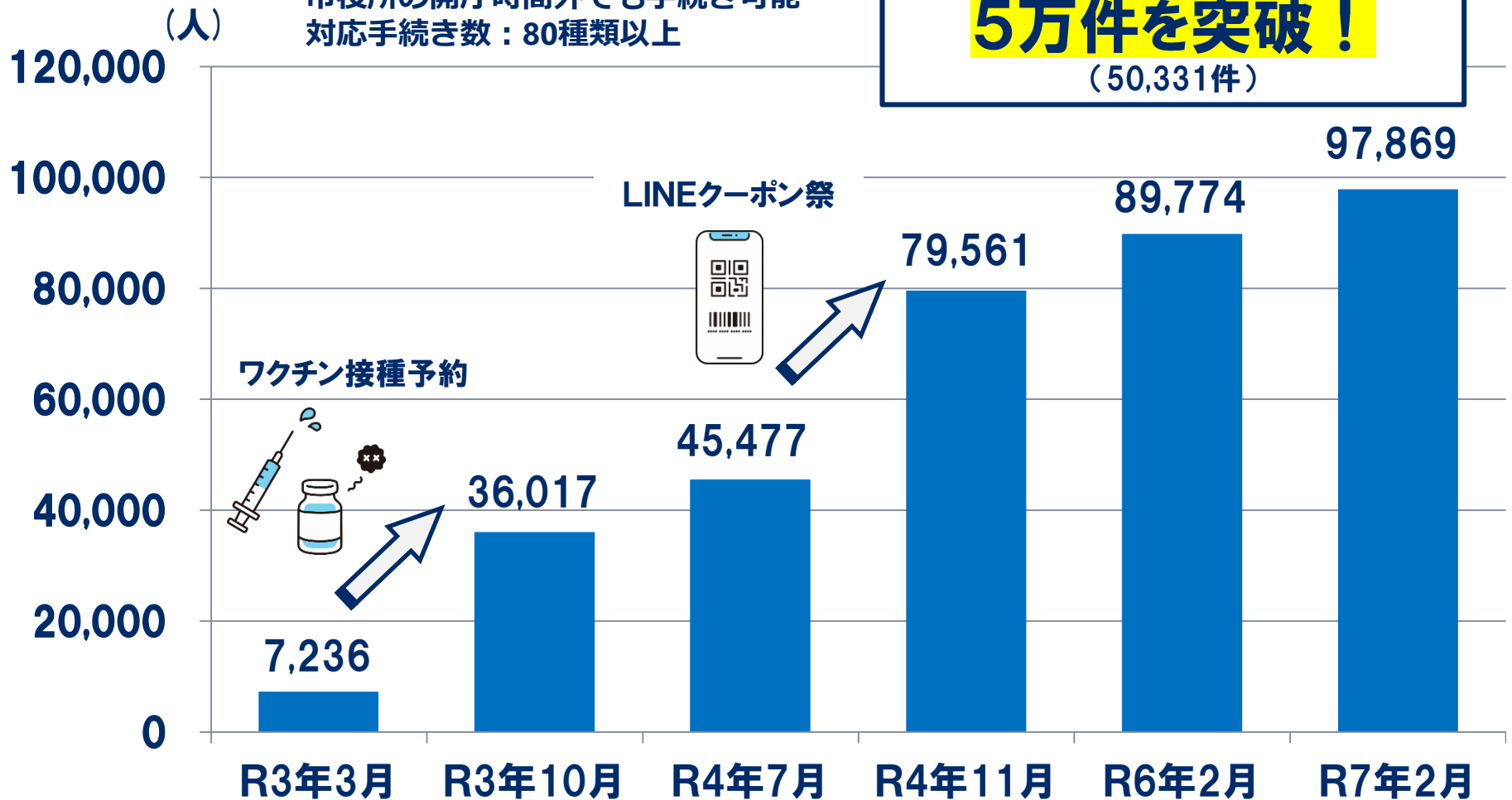
人口を超える 市公式LINE「友だち」数

24時間365日利用可能
市役所の開庁時間外でも手続き可能
対応手続き数：80種類以上

今年度(2024年4月1日～12月31日)
市LINE公式アカウントで手続きされた件数

5万件を突破！

(50,331件)



デジタル化の推進による市民の利便性向上

1. ジャブジャブ池予約

予約件数:6,613件 **LINE予約率:99.8%**

新規導入:QRコードによる入場管理(**利用率:91.4%**)

予約から入場まで全てLINEで完結入場時の混雑緩和、ペーパーレス化

2. **新規導入** 放課後児童クラブの申請

申請数:1,156/1,282件 **LINE申請率:90.2%**

忙しいユーザーでも簡単に申請可能、申請の74%が夜間・休日・市役所開庁時間外

3. 粗大ごみの申請

申請数:1,524/2,216件、**LINEでのオンライン決済率:68.8%**

新規導入:PayPayでの支払いが可能に、申請から決済までLINEで完結

4. **新規導入** 介護保険関係者への問合せシステム

問合せ数:9,454件

24時間365日、LINEで自動応答

介護保険関係者の利便性向上、問合せ業務の負担軽減

デジタル化の推進による業務改善効果

1. ジャブジャブ池の入場管理

LINEで予約・入場を完結させたことで、

入場管理にかかる業務時間を **25時間 → 2.5時間（90%削減）**

2. 介護保険関係者の問合せ対応

従来の電話対応（3分/件）をLINE自動応答に移行

1ヶ月あたり**47時間の業務負担削減**

「書かない・待たない・行かなくてよい市役所」の実現へ向け、

LINE公式アカウントは24時間365日稼働する

「スマホ市役所」へと進化中！